

◆
有田正広（リトラウヴェルン）& **渡邊
順生**（ヴァウテン・クラウツィーア）

「匠の奏でるバロック」有田正広
& 渡邊順生の世界」と題し、古楽界
きっての両雄による演奏会。有田、
渡邊らの共演は久しぶりとのことだ
あったが、それ以上に、トララウエ
ルンと幻の楽器ヴァウテン・クラウツィ
ーア（リュート・チェンバロ）による
デュオは貴重といえた。曲目は、オ
トテール、バッハ、ヘンデルなどの
作品。彼らの奏でる古楽器による語
らいは、繊細でありながら人肌の温
もりが伝わり、人の弱美声に近似す
る繊細な息遣いがこの上なく優婉で
ある。取り分け、この演奏会のメ
インは、最後のバッハ「フルートと
チェンバロのためのソナタ」ト短調
BWV1030aであった。この曲
は「フルートとチェンバロのための
ソナタ」ロ短調BWV1030の初
期稿といわれ、しかもヴァウテン・ク
ラウツィーアの特徴を活かしつつ書か
れたと推測される。ト短調はロ短調
と異なりトララウヴェルンによって困難
な運指を要求されるが、有田はそれ
を微塵も感じさせずに陰影深い味わ
いを醸した。そして、彼らの奏樂は
午後の聖堂に時を隔てた神々しい調
へを紡いだ。（3月9日・横浜山手聖

公会聖堂）

◆
〈世田谷山聖堂〉